

2019年08月20日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【今週は、まだ、「夏休み相場」】

多くの人達にとって、先週までが日本の「お盆休み」で、昨日の月曜日(8月19日)は、「お盆休み明け」だった、と思います。

とは言え、マーケット(外国為替市場・株式市場など)は、引き続き、まだ、「夏休み相場」の様相を呈している、と感じます。

今年(2019年)は、来週の月曜日(8月26日)が、ロンドン市場の「レイト・サマー・ホリデー(8月最終週の月曜日)」です。

毎年、多くの市場参加者は、「レイト・サマー・ホリデー」までが、「夏休み相場」と考えて行動しています。

つまり、今週は、まだ、「夏休み相場」なので、積極的に、あるいは本格的に、取引を行わないで、来週から相場に臨むつもりでいるのだろう、と推測しています。

+++++

こういった、多くの市場参加者が積極的でない時に、ひとりで勝手に熱くなっても、どうにも仕様がありません。

みんながやる気のない時には、相場を振り返って、来るべき「休み明けの相場」に、備えることが大切です。

+++++

今年(2019年)の夏は、米中貿易摩擦問題が、相場の根底に、常に存在しており、落ち着かない雰囲気を持続した、と感じます。

また、FOMCなどのさまざまなイベントもあって、夏休みの休暇を取りにくい状況だった、と思います。

米中貿易摩擦問題は、これといった進展はほとんどなく、くすぶり続けている印象です。

トランプ大統領が、中国に対する追加の制裁関税の一部を、延期する旨発表したことで、米中貿易摩擦問題が、良い方向に向かっている、といった思惑が広がりましたが、それは、米国内のクリスマス商戦に悪影響が出ないようにするための方便である、と、トランプ大統領が、自ら否定しました。

+++++

今週になって（お盆休みが明けて）、米国の株式市場が、少し持ち直していることや、外国為替市場が、静かなことに着目して、米中貿易摩擦問題が和らいだとする見解が散見されます。

しかし、それは、マーケット（外国為替市場・株式市場など）が、まだ「夏休み相場」なので、静かなだけで、それをもって、米中貿易摩擦問題を判断することは、考え方が逆だ、と考えます。

つまり、米中貿易摩擦問題が、具体的にどうなっているのか、を判断して、マーケット（外国為替市場・株式市場など）が動いたのならば、良いのですが、マーケット（外国為替市場・株式市場など）の値動きから、米中貿易摩擦問題がどうなっているのかを推測することは、方法論として間違っている、ということです。

+++++

夏休み明けに、注目すべき点のひとつは、米国の金融政策です。

F R Bは、7月のF O M Cで、0.25%の政策金利引き下げを行いました。

パウエルF R B議長は、「7月の利下げは、利下げサイクルの始まりではない」と発言しましたが、トランプ大統領は、この発言に反発して、F R Bに対して、あからさまな利下げ圧力の発言を繰り返しています。

トランプ大統領の発言の是非は別の問題として、マーケット（外国為替市場・株式市場など）は、9月のF O M Cで、さらなる利下げが実施されることを、織り込みつつある状況と言えます。

米国の政策金利は、引き下げ方向にある、と判断しています。

個人的な見解ですが、今のところ（現時点では）、9月のF O M Cで、0.25%の政策金利引き下げ、と予想しています。

+++++

（2019年08月20日東京時間14:15記述）